第3回国連防災世界会議の 仙台・東北開催について

内閣府(防災担当)

東日本大震災から4年を迎えた2015年3月14~18日、宮城県仙台市の仙台国際センターにおいて、第3回国連防災世界会議が開催されました。今回の会議の主な目的は、2005年に兵庫県神戸市で開催された第2回国連防災世界会議で採択された、世界の防災の取組指針である「兵庫行動枠組(HFA)2005-2015」の後継枠組を策定することです。

本会議には、187か国の国連加盟国の代表、国際機関代表、認証NGO等、約6,500人以上(25名の首脳級含む100名以上の閣僚、国連事務総長、UNDP総裁など)が参加しました。また、周辺会場等で行われた関連事業への参加者も含めると、延べ15万人以上の人々が国内外から参加し、我が国で開催された国連関係の国際会議として最大級のものとなりました。

本体会議では、山谷えり子内閣府防災

担当大臣が議長を務め、各国のステートメント表明、閣僚級ラウンドテーブル、ハイレベル・パートナーシップ・ダイアログ、ワーキングセッション等が実施されました。最終日には、成果文書として、新たな国際防災の取組指針となる「仙台防災枠組2015-2030」と、その推進を決意した「仙台宣言」が採択されました。

また、関連事業として、防災や復興に関するシンポジウム、展示、防災産業展、東日本大震災の被災地へのスタディツアー、また、会議終了後には、東北各地へのエクスカーションが実施されました。こうした取組を通じて、我が国は、世界各国に対し、東日本大震災に下表した。対けた支援に対する感謝を改めて表機に対する感謝を改めて表機に対する感謝を改めて表機に対するをはじめとするとともに、同震災をはじめとする幾等を通じて得た教訓や技術等を共りしました。また、東日本大震災の被災地

○第3回国連防災世界会議 2015年3月14日-18日,於:仙台市

		3月14日	(土)	3月15日(日)		3月16日 (月)		3月17日 (火)		3月18日 (水)	
	A	M	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM		
本体会議	開会式	全体会合 (会議運 営方式等 の決定)	議選 全体会合 式等 ステートメント (各国ハイレベルから順に意見表明) コ							ボスト兵庫行動枠組 政治宣言、 コミットメント の採択	閉会式
		 	閣僚級ラウンドテーブル パートナーシップダイアローグ								
		 	ワーキングセッション								
單	パブリックフォーラム(シポジウム、フォーラム、展示等) (開催場所:東北大学川内萩ホール、仙台市民会館、宮城県民会館、せんだいメディアテーク、夢メッセみやぎ等)										
関連事業			日本国政府主催レセプション		仙台市主 催レセプ ション		リスク賞 授賞式		笹川賞 授賞式		
		被災地視察 (スタディツアー)									エスカーション

の復興の現状や取組を発信するととも に、被災地の振興に寄与する重要な機会 となりました。

以下、本体会議の各セッションの概要 や関連事業の概要についてご紹介しま す。

本体会議の開催概要について

(1)開会式

14日午前、天皇皇后両陛下の御臨席の もと開会式が行われました。本世界会議 の議長として、山谷防災担当大臣が選出 され、開会挨拶を述べました。続いて、 国連事務総長の挨拶、開催国を代表して 安倍晋三内閣総理大臣から歓迎の挨拶が 行われたほか、COP21の議長を務める ファビウス仏外相、メジャーグループ代 表がスピーチをし、最後に、開催都市で ある仙台市を代表して、奥山恵美子仙台 市長が歓迎の挨拶を行いました。



開会式において挨拶を行う潘基文国連事務総長

(2)各国のステートメント表明

全体会合では、各国の政府代表や国連機関等の代表から、これまで行ってきた 防災の取組や、新たな防災枠組への期待 などが表明されました。特に、全体会合 の冒頭には、各国の首脳級がステートメ ントを行い、我が国からは、安倍総理が 日本政府を代表してステートメントを行いました。安倍総理は、「仙台防災協力イニシアティブ」を発表し、今後の日本の防災分野での国際協力について、2015年から2018年までの4年間で計40億ドルの資金協力と4万人の人材育成を表明し、日本の知見と技術を世界と共有する方針を打ち出しました。

(3)ハイレベル・パートナーシップ・ ダイアログ

14日、16日及び17日の3日間、3つのハイレベル・パートナーシップ・ダイアログ(対話)が行われました。我が国からは、特に、14日午後に行われた、「女性のリーダーシップ発揮」に関する対話において、安倍総理が基調講演を行り、東日本大震災発生時における女性のりょって、避難者へのケアやコュ平常時における女性の参画として、全ての再生等における女性の後割、での当時における女性の参画として、全での消防団の女性団員の増加等について紹介するとともに、「仙台防災協力イニシアティブ」の主要プロジェクトとして、

「防災における女性のリーダーシップ推進研修」を開始することを発表しました。また、同対話の共同議長を高市早苗総務大臣が務め、東日本大震災における我が国の女性消防団員、女性防火クラブの活動事例や、震災後に地元女性が臨時災害FM局を立ち上げた事例を紹介し、予防・応急・復旧・復興の災害対応の各段階における女性のリーダーシップの重要性を強調しました。

(4) 閣僚級ラウンドテーブル

15日~17日にかけて、5つの閣僚級ラ

ウンドテーブル (円卓会議) が開催されました。特に、15日午前に行われた、

「災害後の復興:より良い復興」に関す る会議には、太田昭宏国土交通大臣が出 席し、我が国がこれまで経験してきた阪 神・淡路大震災、東日本大震災、水害等 の教訓と、それを踏まえた耐震補強や津 波対策等を説明するとともに、ハード・ ソフト一体となった防災・減災対策や、 予防的な投資の重要性を主張しました。 また、同日午後に行われた、「防災のた めの国際協力とグローバル・パートナー シップ」に関する会議では、岸田文雄外 務大臣が出席し、安倍総理の発表した 「仙台防災協力イニシアティブ」に基づ き、日本が重視する「3つの鍵」、すな わち、長期的視点に立った防災への事前 投資、グローバル・パートナーシップ及 び人間の安全保障のアプローチの理念に 基づき、国際防災協力を進めていく決意 を述べました。

(5) ワーキングセッション

14日~17日にかけて、「現行HFA優先行動の進捗」、「新たなリスク」、「ポストHFA実施に向けたコミットメント」及び「ポストHFA実施の加速化」の4テーマに沿って、専門家等が個別のテーマについて議論をする34のワーキングセッションが行われました。

本会議の成果文書について

会議最終日の18日の深夜、全体会合の 成果文書採択セッションが行われ、起草 委員会で直前にまとまった「仙台防災枠 組2015-2030」及び「仙台宣言」の草案が 同委員会共同議長から報告され、山谷議 長はこれらの文書を全体会合に諮り、両 文書とも全会一致で採択されました。

「仙台防災枠組」は、兵庫行動枠組の 後継枠組として、2030年までの世界各国 の防災の取組指針となるものであり、事 前の防災投資、「より良い復興(Build Back Better)」、多様な主体の参画によ るガバナンス、人間中心のアプローチ、 女性のリーダーシップの重要性等、日本 が重視する点が盛り込まれています。

山谷議長は閉会挨拶において、「仙台 防災枠組」の下、地方、国、地域、グローバルレベルで災害リスク削減の取組 を強化していくこと、新たな開発アジェンダや気候変動枠組に防災の視点が取り 込まれるよう働きかけていくことを表明 しました。また、自助・共助の取組促進 についても言及し、国際的な津波防災の 日の制定が、世界中の防災意識向上に資 する旨提案しました。

また、ワルストロム国連事務総長特別代表(防災担当)からは、今後15年間、仙台防災枠組を実施していくためには強力なコミットメントと政治的リーダーシップが必要と述べるとともに、本会議の準備段階でなされたものを含め、200を超える自発的なコミットメントがなされたと述べました。



仙台防災枠組を採択する山谷議長



せんだいメディアテークにおける「東北防災・復興パビリオン」の様子

関連事業の実施概要について

第3回国連防災世界会議の一環として、政府機関、地方自治体、NPO、NGO、大学、地域団体など、国内外の多様な主体による防災や減災、復興に関する取組等を広く発信する関連事業が開催されました。

「東日本大震災の経験と教訓を世界 ヘレをテーマとして、新たな防災の在り 方等を展望する「総合フォーラム」の開 催をはじめとし、約400のシンポジウムや セミナーが仙台市内や被災隣接県会場で 行われました。また、東日本大震災の被 災自治体が連携し、防災や復興の取組を 世界に向けて発信する「東北防災・復興 パビリオン」が開催されたほか、「世界 の防災展」として約200の屋内展示、屋外 展示が実施されました。また、「市民協 同と防災」と「女性と防災」をテーマと した、2つのテーマ館が設けられ、それ ぞれのテーマに基づき、シンポジウムや ワークショップ、展示等が行われ、国内 外の団体間の情報交換、交流の機会とな りました。さらに、災害時に役立つだけ でなく、平時の快適性・経済性・環境性 等にも貢献する、我が国の防災関連技



スタディツアー「復興ふくしま~食の安全安心~」の様子

術・製品を展示する「防災産業展」が開催され、約160社・団体が出展しました。

このほか、会議期間中に世界各国からの多くの参加者に向けて、東日本大震災からの復興の現状や取組を発信することを目的に、25コース42本のスタディツアーが開催されたほか、歓迎レセプションや東北6県の視察・体験ツアーであるエクスカーションが会議終了後に5コース実施されました。

仙台防災枠組の推進に向けて

今後、仙台防災枠組に基づき、国際社会において防災の主流化を進めていくためには、同枠組の推進のみならず、本年秋に策定されるポスト2105年開発アジェンダや、本年冬に開催されるCOP21における気候変動の議論にも、防災の視点をしつかりと反映させ、それらのグローバルな取組とも相まって、防災の取組を普及させていくことが重要です。

また、我が国としては、安倍総理が表明した「仙台防災協力イニシアティブ」に基づき、ハード対策、ソフト対策、そして国際機関との連携等を効果的に組み合わせ、国際防災協力を推進していきます。